

令和七年度

高等学校入学者選抜学力検査問題

国

語

注意事項

- 一 問題は、一ページから七ページまであります。
- 二 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。

「次の文章には、六年生の『ぼく』が、日本刀を作る刀匠の両親をもつ同級生の榎から、刀匠を志すことを母親から反対されていると聞いたときのことが書かれている。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(15点)」

ぼくは反応できなかった。そもそも刀匠の仕事というものがそうぞうできない。ぼくは考えた。

「でもさ、刀匠の仕事がきらいだったら、榎のママ、すぐにあきらめたんじゃないかな。つらい修業になんて耐えられないよ。」ぼくは榎にたずねた。「榎のママってさ、やけどばっかりしてるの？」榎は首をふる。

「じゃ、いつも煤だらけなの？」また首をふった。「変なの。やけどもしてなくて、煤だらけにもなつてなくて、それでもママは榎には反対してるんだ。」榎がはつとした表情を浮かべた。「そっか、そうだよ。ママね、刀匠の仕事はつらいこともあるけど好きだって、だいぶ前に言ってたことある。」榎はうなずいている。

「つらいことばかり聞かされてたわけじゃなかった。ママね、ただのごつごつした鉄の塊がどんどん変化していくのを見るのとか、炎の色、炭のにおい、ハンマーの音や、熱した塊を水の中につけたときにたちのぼる一瞬のにおいと音、そのすべてが好きなんだって。あの固い塊がぐんにやりと曲がって、思い描いた形に近づいていくのが、おもしろいんだって。そう話してくれるママ、わし、すごく好き。」

あこがれの人がママって、いいなと思う。

「ママは刀匠になったのに、わしが刀匠になりたいって言うと、絶滅寸前の仕事だから将来はないって。だからやめろって。おかしくない？」榎がうつすらと笑った。「え、絶滅？」ぼくはちよつとびっくりして聞き返した。「完全になくなっちゃうってこと。刀匠が、この世界から、なくなっちゃうってことだよ。」それは大変だと、ぼくは思った。

「でも、わし、やってみたい。刀匠になりたい。」榎はもてあそんでいた石ころを谷底のほうへなげた。「ママはね、今ね、日本でたったひとりの女性の刀匠なの。わし、二人目になりたい。」

ぼくは榎の声を聞いていた。内容が頭に入っているかどうかちよつとあやしいところもあるけれど、今の榎の言葉ではととした。「ちよつと待てよ、それって、すごいことだぞ！」いつものように即座に反応できなかったけれど、ぼくはすごくびっくりした。「だってさ、日本刀って、日本だけのものだろ。日本だけで作られるものだろ。それを作る日本でたったひとりの女の人ってことはさ、世界でたったひとりの女性の刀匠ってことじゃないのか？」世界でひとりと、ぼくは頭の中でくり返した。

「そうなの。江戸時代に、ひとり、女性の刀匠がいたって伝わってるけれど、それ以外にはいないの。今の時代に女性の刀匠がいるって、すごいことなの。ママを尊敬しているし、ママみたいに刀匠になりたいって思ってる。でも、ママはだめだって。」消え入りそうな榎の鼻声になつてくる。この場をなんとかしなくてはと、ぼくはあせつた。

「榎なら、なれるよ。」榎がきつと顔をあげた。「根拠もなくさめてくれなくていい。」その通りかもしれない。でも、ぼくは言葉を重ねた。「女性の刀匠って、今はママだけだけど、いや、江戸時代にもひとりいたんだろ。だったら、やってみたいと思ってる女の人、ほかにきつといるよ。そのうち、男だからとか、女だからとかって関係なくなるよ。刀匠、かっこいいもん。」「そうかな……。」榎が考えている。その横で、ぼくは、とまどつていた。どうしてぼくは、山の中で、榎の夢を聞かされて、ママとのめごとをグチられて、励ますことになつたんだろう。

「あのさ、卒業アルバムに『将来の夢』って欄があるだろ。考えとけってアルバム委員が言ってたやつ。榎はさ、そこに『刀匠』って書くの？」「そうだよ。」あたり前のことを聞くなという口ぶりだ。「夢があるだけで、すごいのに、しかも刀匠って、すごすぎないか？」これといつて夢

のないぼくは、心の中がもやもやしはじめた。「そうかな？ パパもママも刀匠だから、遠いかなたの夢っていう気がしないんだ。今はママに反対されてへこんでるけど、あきらめなければなるんじゃないかなって……。」「あきらめなければって……。」あきつぽいぼくからすれば、それもすごい。夢のないぼく。なぜだか胸の奥がちりちりする。

「ぼくに言われなくてもそうするんだろうけど、どんどん突き進めよ。椰の夢は椰にしか見られないんだからさ。」そのとたん、椰が座っていた岩から立ちあがった。胸の前で両手を組み、ほおを染めている。「そうだね、そうだね。遠山、今すぐいいこと言った。わしの夢はわししか見られなくて、夢は見たもん勝ちだね。」ぼくは強くうなずく。そうそう、それが言いたかったんだ。泣いたり、悔しがったり、心の中は台風みたいに大荒れかもしれないけれど、刀匠になるという夢が椰の心の芯にある。

(にしぎきょうこ『アオナギの巣立つ森では』による。)

- (注) ① 物が燃える際に、煙とともに出る黒い粉。 ② 大型のかなづち。
③ わたし。 ④ 表情や態度などが厳しいさま。
⑤ 言っても仕方がないことを嘆かれて。

問一 二重傍線(＝)部⑥、⑦のひらがなを漢字に直し、⑧、⑨の漢字に読みがなをつけなさい。

問二 次のア～エの中から、波線(〰)部と同じ構成の熟語を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 変換 イ 真偽 ウ 雷鳴 エ 潜水

問三 次のア～エの中から、本文中の⑩で示した部分にみられる表現について説明したものととして、最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 誇張した表現を連続して用いることで、鉄を加工するときの危険性を強調している。

イ 擬態語を効果的に用いることで、鉄の変化していく様子を印象付けている。

ウ 単語を一定のリズムで並べることで、鉄を加工することの難しさをきわ立たせている。

エ 文末に体言止めを多用することで、鉄の変化を見極めようとする職人の真剣さを伝えている。

問四 傍線部1から、「ぼく」が、日本で唯一の女性の刀匠である椰の母親について気付いたことがあると分かる。「ぼく」は、日本で唯一の女性の刀匠である椰の母親についてどのようなことに気付いたか。二十五字以内で書きなさい。

問五 次のア～エの中から、「ぼく」が傍線部2のようになった理由として、最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 椰の話が終わりそうもなく、時間がかかると思ったから。

イ 椰から夢について聞かされる理由が、分からなかったから。

ウ 「ぼく」の何気ない一言に、椰がいらだつと思ったから。

エ 弱々しく話す椰が、泣きそうになっていると感じたから。

問六 「ぼく」は、飽きやすい自分と比べて、刀匠になるとい夢について椰が考えていることに感心している。「ぼく」が、飽きやすい自分と比べて感心した、刀匠になるとい夢について椰が考えていることを、椰の心境を推測していることが分かる比喩を用いた表現を含めて、四十字程度で書きなさい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(13点)

ブフネラというアリマキ(アブラムシ)と共生している細菌がいる。

アリマキは植物の害虫で^{注①}師管液を吸汁して生きている。師管液には光

合成に由来する糖分が多く含まれているが、タンパク質のもととなるアミノ酸はほとんど含まれておらず、アリマキは常に糖分過多である。ブ

フネラはそんなアリマキにアミノ酸を合成して与え、その代わりに過分にある糖をもらって生きている。ブフネラとアリマキの共生は細胞内共

生という少し特殊な形態で行われており、アリマキは体内に菌細胞という特別な細胞を作り、ブフネラはほぼ一生をその菌細胞の中だけで過すことになる。彼らの共生の歴史は長く、共生生活を始めてからすでに

2億年になると推定されている。2000年に日本人研究者によって、

このブフネラの^{注②}ゲノム配列が決定されたが、その結果は驚くべきものだった。

ブフネラは私たちの腸内にいる大腸菌と近縁の細菌だが、大腸菌と比べると持つ^イている遺伝子の数が約7分の1になっていた。これはアリマキの菌細胞内での長い共生生活の間に、アリマキ側から提供してもらえ
るものは、自分で作る必要もないよねと、どんどん遺伝子を捨てていった結果と考えられている。私たち人間も、たとえば結婚すると、それ
で別々にもつていた洗濯機とかアイロンとか炊飯器とか、^㉑二つあっても
仕方のないものがたくさん出てきて、人にあげたり捨てたりして処分
することがあるが、それと同じようにブフネラは自分の遺伝子を次々と処
分してしまい、気づけば2億年の間に遺伝子の数が7分の1になってし

まったということらしい。

しかし、そんなブフネラは当然もうアリマキと離れては生きていけない。大腸菌なら人の体内から外に出て、たとえば川でも池の中でも生きていけるが、ブフネラはアリマキの体から取り出すと、自然界では生きていけないし、人工的にどんな栄養素を与えても培養すらできない。自分ひとりでは^{注③}外敵と戦うことはおろか、自分の細胞膜さえ作れないのである。大学でそんなブフネラの話を紹介すると、ブフネラはもう生物じゃない、という意見が出てくる。ブフネラはアリマキの体外に出てひとりで生きていけない以上もうアリマキの一部であり、一人前の独立した生物として^㉒みとめることはできないということだ。ブフネラの生態を考えれば、もつともな意見である。

しかし一方で、「独立して」生きている生物など、本当にいるのだろうか？ ^オとも思う。たとえば人間はどうだろう？ 私たちの食べ物、野菜であれ、肉であれ、他の生物に依存している。実はアリマキと同じで、人間はアミノ酸のいくつかを自分で充分な量作ることができず、他の生物から摂取しなければ生きていけない。人間は肉や魚といった食物からそれらを得ており、ブフネラのように特定の生物に依存しないと生きていけない訳ではもちろんない。ただ、改めて考えてみれば、依存する生物が生きているか死んでいるか、あるいは特定なものか不特定多数かといったことに、何か本質的な違いがあるだろうか？ また、人間は呼吸によって酸素を得ているが、それは陸上の植物や海の藻類などが光合成をすることで生み出されたものだ。つまり食物にせよ、それに含まれるアミノ酸にせよ、呼吸のための酸素にせよ、それらはす

べて他の生物の存在に依存している。

そう私たちは、牛や豚やニワトリに、迷惑をかけながら生きている。

それが私たちの本当の姿である。そしてそれは程度の差こそあれ、人間だけでなく現在この地球上に存在するすべての生物に共通する姿と言つてよい。たとえ他の生物を捕食することのない植物であっても、光合成に必要な二酸化炭素は、他の生物の呼気によつて大氣中に供給されている。また植物の多くは菌根菌^{注④}という共生菌の存在がなければ、土から十分な養分を吸収することができない。決して「独立して」生きている訳ではないのだ。この世界は、すべてを完璧にこなし、他の生物の助けなど必要のない生き物たちが集まつてできているのではなく、それ単独では生きていけない、不完全でいびつな生き物で溢^{あふ}れている。そして、それらがお互い補い合い、つながつて全体の存在を可能にしている。それが「生命」の本当の姿である。

(中屋敷均^{とし}『わからない世界と向き合うために』による。)

(注) ① 師管の中を流れる液。 ② 遺伝情報の並び方。 ③ 育て増やすこと。

④ 根に寄生している菌。

問一 二重傍線(=)部⑥の漢字に読みがなをつけ、⑦のひらがなを漢字に直しなさい。

問二 波線(〰)部ア、オの動詞の中には、活用の種類が一つだけ他と異なるものがある。それはどれか。記号で答えなさい。

問三 筆者は本文において、日本人研究者の研究の結果、ブフネラは、私たちの腸内にいる大腸菌と比べて、どのようなになっていたことが分かったと述べているか。二十字以内で書きなさい。

問四 次のア、エの中から、本文中の の中に補う言葉として、最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 果たして イ もし ウ たぶん エ 決して

問五 筆者は本文において、不完全でいびつな生き物は、どのようにすること全体が存在を可能にしていると述べているか。ブフネラとアリマキを例に、ブフネラがアリマキに何を与え、アリマキから何をもらっているか分かるように、五十字程度で書きなさい。

問六 次のア、エの中から、本文で述べている内容として、最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 植物の害虫であるブフネラは、師管液を吸って生きており、

二億年前から地球上に存在している。

イ アリマキの体外に出したブフネラは、人工的に栄養素を与え続けなければ、育てたり増やしたりすることができない。

ウ 人間は、十分な量を作ることができないアミノ酸のいくつかを、肉や魚といった食物から得ることで生きている。

エ 他の生物を捕食することのない植物は、菌根菌が付くと土から養分を吸収することができず、生きられなくなる。

三 あなたのクラスでは、総合的な学習の時間の授業で、持続可能な資源について調べたことを、班ごとに発表することになった。次の文章は、あなたの班の原稿の一部である。あなたはこの原稿を推敲^{すいこう}することになった。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(9点)

私たちの班は、竹について発表します。皆さんは、竹の利用というどのようなものを思いつけますか。日本では一般的に、昔から様々なものに利用してきました。例えば、カゴやザルなどの日用品や笛などの楽器に竹が使われています。

社会科の山本先生から借りた資料¹には、縄文時代の遺跡から竹製のザルなどが見つかったことが紹介²されていました。人々が竹の利用してきた年月の長さに、私たちはとても驚きました。

では、なぜこれほど竹が利用されてきたのでしょうか。

ア これらの加工しやすい性質から、竹が利用されてきたのです。

イ それは、次のような竹の性質から分かります。

ウ また、横方向には柔軟性があつてしなやかという性質もあります。

エ 一つには、縦方向に割れやすいということがあります。

古くから様々な場面で利用されてきた竹ですが、一九六〇年代からのプラスチック製品の生産量の増加などにより、しだいに使われなくなりました。しかし、近年、竹は、環境にやさしい資源であることと、持続可能な資源であることで、再び注目されるようになりました。(※)今では、スプーンやフォークなどの竹製品が多く開発されています。

私たちに身近な竹は、持続可能な資源としてこれからも利用されていくと思います。

問一 第一段落には、聞き手を意識して工夫した、効果的な表現がある。次のア～エの中から、第一段落にある効果的な表現を説明したものとして、適切でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア はじめに、発表する内容の主題を提示する。

イ 自分の体験を話すことで、聞き手の緊張を和らげる。

ウ 具体例を示すことで、聞き手の理解を助ける。

エ 問いかけることで、聞き手の注意や関心をひきつける。

問二 傍線部1を、「山本先生」に対する敬意を表す表現にしたい。傍線部1を、敬意を表す表現に改めなさい。

問三 傍線部2を、助詞だけを一語直すことによって、適切な一文にしたい。傍線部2の中の、直すべき助詞を含む一つの文節を、適切な形にして書きなさい。

問四 本文中の□の中にあるア、エの文を文脈が通うように並べかえ、記号で答えなさい。

問五 次の□の中のメモは、あなたが調べた竹の特徴である。あなたは、本文中の(※)の部分で、傍線部3の理由を具体的に示すように考えた。(※)の部分に付け加えるのに適切な、メモの内容をふまえた一文を、「なぜなら、」の書き出しで書きなさい。

- ・ 木の幹にあたる部分を稈^{かき}と呼び、中は空洞の部分が多い。
- ・ 育成に農薬を必要としない。
- ・ 成長には、一日に大量の水分が必要である。
- ・ 地下茎から新しい竹が伸び、伐採しても繰り返し収穫できる。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(7点)

ある人、注①古田織部よりつたへたる、はねつるべといへる香合とも知らず、注②受け継いだ

さもなくば器物の中にまじへつつ、道具商人あきうじを呼びて、この類注③、長持にそれほど価値の高くない、いっしょに入れて

五棹いつささほどあり、見わけて買取るべし、とて見せけるに、多くの商人、注④買い取るがよい

うち見つつ、これかれ目利めききするうち、大坂屋勘吉とて、目の利きたる者、注⑤見ながらあれこれ品定めするなかに物の価値を見分ける力をもっている

此香合を見て申しけるは、この品、よろしきものと知り給ひて、かくは注⑥価値の高いもの、注⑦このように

粗末にし給ふや、また知り給はざるにや。これこそ織部のはねつるべ、注⑧いい加減に扱いなさるのか、注⑨こ存じないのか

といふ香合なり。注⑩我等はこれのみ買取り申したく、その他の品々はわたし

よの人々、ともかくもし給へ、とて、他の品にはさらに心をかけず。さ皆さん、注⑪どのようにでもしてくださう、注⑫まったく関心を抱かない

て、これをこそいよいよ売払ひ給ふにや、今一応のおんこたへを承はりたし、注⑬本当に売り払いなさるのですか、注⑭一度、注⑮二返答、注⑯いたたまたい

といふに、いよいよ売払ふなり、といへば、注⑰さあらば百金に申しうくべし、注⑱それならば百両でお願い申し上げよう

とて、買取りて、注⑲左海へ持ち行き、注⑳千両に売りけるとぞ。比興ひきようなき商人、注㉑正々堂々として

いと殊勝におもはる。
とても立派であると思われる

『雲萍雜志』による。

- (注) ① 安土桃山時代の武将で茶人。 ② 香料を入れる小さな容器。
③ ふたのついた大きな木製の箱。 ④ 今の大阪府堺市。

問一 二重傍線(〰)部を、現代かなづかいで書きなさい。

問二 波線(〰)部ア、エの中で、その主語に当たるものが他と異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

問三 勘吉が、傍線部1のように述べているのは、「ある人」のどのような行動に対してか。現代語で書きなさい。

問四 傍線部2で、筆者は、勘吉の言動をふまえ、正々堂々としている商人だと述べている。次の□が、勘吉の正々堂々とした言動をまとめたものとなるように、【 】に入る適切な内容を考え、て書きなさい。ただし、勘吉が「織部のはねつるべ」を買い取ろうとしたときの発言が分かるように書きなさい。

・品定めていたときに、香合が価値の高い「織部のはねつるべ」であることを隠さなかったこと。

・「織部のはねつるべ」を買い取ろうとしたときに、

【こと。】

五

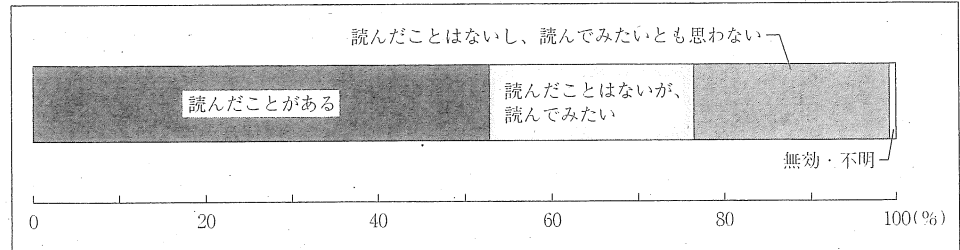
下の二つのグラフは、子どもの読書の実態や子どもの読書環境について調査した「学校読書調査」のうち、「電子書籍の読書」について調査した結果を表したものである。

あなたは、この二つのグラフから、読書についてどのようなことを考えるか。あなたが考えたことを、あなたがそのように考えた理由を含めて書きなさい。ただし、次の条件1、2にしたがうこと。（6点）

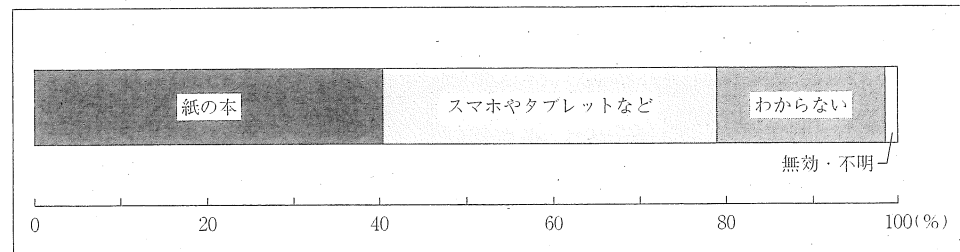
条件1 一マス目から書き始め、段落は設けないこと。

条件2 字数は、百五十字以上、百八十字以内とすること。

グラフⅠ あなたは、スマホやタブレットなどを使って電子書籍の読書をしたことがありますか。



グラフⅡ (グラフⅠで「読んだことがある」と答えた人に対して)
紙の本と、スマホやタブレットなどをくらべると、どちらが読みやすい(わかりやすい)ですか。



注1 全国学校図書館協議会「第67回学校読書調査報告」(令和4年)により、調査項目の中から一部の項目を取り上げて作成。

注2 グラフⅠは、調査対象から中学生4,552人を取り上げたもの。

注3 電子書籍には、電子教科書、新聞・雑誌の電子版は含まない。